入居者が重度化した場合における対応指針

1.目的

シニアホーム武甲の郷の入居者が、病状の重度化や加齢により衰弱し人生の終末期の状態になっても、なじみの関係や環境での生活を維持し、そして本人が望む場所で最期まで暮らしていくことができるようケアを行うと共に、医療関係者・家族等と協力していくことを目的とする。

2.重度化した状態・終末期の判断（主治医の判断を基本とする）

①老衰　②多様な疾患（慢性疾患等）の重症化　③骨折等による身体機能（ADL）の著しい低下

④認知症状をはじめとした精神疾患の重症化　⑤がんの終末期　等

3.重度化に対する基本姿勢

病状が重度化した入居者、あるいは人生の終末期の入居者が、疼痛や苦痛がなく本人・家族等が望むような人生の過ごし方ができ、シニアホーム武甲の郷での生活が継続できるように、最大限の対応を行う。

重度化・終末期にあたっては、介護方法、治療等について本人ならびに家族の意向を最大限に配慮し、対応入居者（利用者）や家族と事業者との間で話し合いを行い、個別介護サービス計画書（以下、ケアプラン）等で相互に同意された内容について確認をとりながら、多職種協働により入居者への継続的支援を行う。

(1)個人を尊重したケアを行う

環境の変化の影響を受けやすい入居者が、「その人らしい」生活を送ることができるよう、尊厳ある生活を保ち、「生活の質」が最高のものとして実現できるケアに努める。

(2)住み慣れた生活環境での生活を支援する

できる限りシニアホーム武甲の郷での生活が継続できるよう、日常的な健康管理に留意し、万が一医療的ニーズが発生した場合には、適切な対応がとれるよう医療機関との連携を図る。

(3)重度化・終末期に伴うケアプランの作成

重度化し終末期を迎えても「その人らしい」生活を送ることができるように、生活支援ニーズの変化に応じてケアプランを作成し、入居者・家族の希望に沿った生活支援の目標を定める。また、状態の重度化や看取りにあたっては随時ケアプランを見直す。

(4)ケアプランに沿ったケアの実施

入居者・家族と共に作成したケアプランに基づき、一人ひとりの心身の状態に応じた、適切なケアの提供に努める。

4.重度化対応と連携

(1)主治医との連携

主治医の指示・指導のもと、必要な介護・看護を行いながら、時に入院先の医療機関とも連携していく。

(2)地域の多様なサービスとの連携

入居者が重度化･終末期を迎えていく過程の上では、状態に沿った適切なケアや緩和ケアが必須であり、地域の薬剤師（調剤薬局）・歯科医師・栄養士等、多様な専門職との連携を行い対応する。（居宅療養管理指導や訪問診療等の利用を検討する）

(3)健康管理の実施

入居者の日常的な健康管理のため、事業所が配置する看護職員が、週に2回以上、または必要に応じ入居者の健康確認を行う。

(4)夜間（24時間）の対応

通常時並びに入居者の状態悪化時においては、看護職員が24時間オンコール体制の下で、入居者の主治医（医療機関）との連絡・調整を行う。

(5)緊急時の対応

入居者の健康状態が悪化もしくは急変した揚合には、事業所は、主治医並びに看護職員の指示・対応に基づき、入居者に対し出来る限りの処置等、必要な対応を行う。

生命の危機に瀕する場合や濃厚な医療処置が必要な場合には、その状況に応じ、速やかに緊急搬送の要請を行う。

※緊急時の対応は別紙 「緊急時対応マニュアル」 によるものとする。

(6)必要な情報提供

入居者・家族が別に希望する医師・医療機関等があり、本人・家族が受診等を行う場合には、上記の医師ならびに医療機関に対し、必要な情報提供等を行うなど連携を図る。

5.職員教育・協力関係

重度化ケアが充実するよう、利用者の重度化に対応するための介護技術、専門知識の習得を目的とし、介護の質の向上を目指し職員教育・研修に努めていく。また、入居者・家族等の意向を重視した密な連携をもつことができるように努力する。

説明年月日 ：　平成 　　年　 　月 　　日

事業所名： **シニアホーム武甲の郷** 印

所在地 ： 埼玉県秩父市日野田町２－１４－５

説明者署名 　　　　　　　　　　　　 　　印

上記、有限会社風原 シニアホーム武甲の郷が定める『入居者が重度化した場合における

対応指針』の説明を受け、同指針の内容を理解し、同意いたします。

平成　　　年　　　月　　　日

入　居　者　　　　　　　　　　　　　　　　 印

身元引受人　　 　　　　　　　 　　　　　　印